

会 議 録 ( 1 )

会 議 の 名 称	入間市地域福祉計画進行管理委員会
開 催 日 時	平成30年8月30日(木) 午前10時 開会 ・ 午後0時10分 閉会
開 催 場 所	入間市役所C棟5階 503会議室
議 長 氏 名	栗原正明
出席委員(者)氏名	橋本清美 山下恵久子 齋藤勝久 白水 翠 諏訪結花 平林佳代子 栗原正明 伊藤祐一 橋本康夫 渡辺雅智
欠席委員(者)氏名	臼井 秀 下里隆子 宮岡幸江 青木和男 伊藤 翔
説明者の職氏名	福祉総務課 課長 小久保安浩、主幹 浅見孝之、主任 松本幸文
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開 会 2 委員長あいさつ 3 議事録署名人の選出について 4 議 題 (1) 元気ないまま福祉プランの改定について(第5章) (公開) 説明・報告 (1) 平成30年度いるま福祉懇談会報告について(公開) 5 閉 会
非 公 開 理 由	なし
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	・入間市地域福祉計画第5章(案) ・第2次元気ないまま福祉プラン基本体系(案) ・第3次入間市地域福祉計画体系図(案) ・いるま福祉懇談会 地区別参加者数
事務局職員職氏名	福祉総務課 課長 小久保安浩、主幹 浅見孝之、主任 松本幸文
会議録作成方法	要点筆記

## 会 議 録 (2)

### 議 事 の 概 要 ( 経 過 ) ・ 決 定 事 項

#### 議 題

(1) 元気ないるま福祉プランの改定について (第5章)

- ・第3次入間市地域福祉計画第5章について、事務局が作成した素案を提示し、説明した。主な改正点を項目毎に説明し、その後、各委員から意見聴取した。

#### 説明・報告

(1) 平成30年度いるま福祉懇談会報告について

- ・平成30年度いるま福祉懇談会の出席者数について、事務局より報告を行った。

## 会 議 録 ( 3 )

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p style="text-align: center;">(委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する)</p> <p>第2回会議の議事録署名人は、名簿順に従い、橋本(清)委員とされた。</p> <p style="text-align: center;">(議題(1)元気ないるま福祉プランの改定について(第5章))</p>
栗原委員長	事務局の説明に対するご意見、ご質問など何かありますでしょうか。
橋本(康)委員	<p style="text-align: center;">【第1節 総合的な地域ケアシステムの構築】</p> <p>「今までは…」の最後の部分で、「個別ケース課題については連携が図られている」とありますが、連携が図られているならなぜ総合的な地域ケアシステムの構築が必要なのかが繋がらない。連携ができていないから地域ケアシステムの構築が必要なのではないでしょうか。</p>
事務局	個別のケースについては必要な連携を図っています。しかし、多機関による連携は、充分とは言えない状況です。連携ができていないことを前提に、だからこそ総合的な地域ケアシステムの構築が必要であるということがわかるような文章に、修正していきます。
齋藤委員	「これからは…」に記載されている事例で「8050問題」とありますが、あまり聞き慣れない言葉であるため、説明書きを加えてはどうでしょうか。
事務局	後半部分に説明書きを加えます。
平林委員	我々、包括支援センターの職員としては、8050という言葉は普段からよく使う言葉です。8050という言葉はネガティブな意味に捉えられが

発 言 者	発 言 内 容
諏訪委員	ちですが、実際に80代の親、50代の子が同居し、問題なく暮らしている家庭も多いです。
事務局	私も同意見です。少し表現を工夫していただけないでしょうか。
事務局	今の意見を基に説明文を加えます。この部分については平林委員、諏訪委員と調整しながら作成したいと思います。
橋本(康)委員	<p>【第3節 重点的に取り組む事項（子育て支援と障害者支援）】</p> <p>この節では、文面だけ見ると、高齢者は重点的に取り組まなくて良いというように見えます。高齢者も重点的に取り組まなければならないと思いますが。</p>
事務局	おっしゃるとおり高齢者支援も大事です。しかし、これまでの地域福祉計画では高齢者支援に関する項目は多くあるものの、子ども支援、障害者支援についてはあまり触れていませんでした。地域福祉計画でもしっかりと目を向けていくために重点事項として新たに記載をしました。
齋藤委員	今までの地域福祉計画では、高齢者支援がほとんどで、子ども支援、障害者支援の重点度が低く位置付けられているように感じます。そういった意味で、重点度が低く感じる所を高齢者支援と同列に重要であると強調するために、3節の重点的に取り組む事項として子ども支援、障害者支援を盛り込むことに賛成です。
諏訪委員	高齢者支援も大事ですが子ども支援、障害者支援も大事ですといった表現に変えれば良いと思います。前置きで、これまでも高齢者支援を重点的に行ってきたし、これからも必要です、といったような内容に触れてはどう

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>でしょうか。</p> <p>3節の冒頭部分に高齢者支援について加えさせていただきます。</p> <p><b>【第5節 社会福祉協議会への支援】</b></p>
橋本（康）委員	<p>「これからは…」のところ「地域福祉コーディネーターを配置する」とありますが、今後も配置していく予定ですか。</p>
事務局	<p>配置していきます。</p>
橋本（康）委員	<p>地域福祉コーディネーターの他に生活支援コーディネーターもいます。名前も役割も似ていることから、各コーディネーターの関係がはっきりわかるようにしてほしい。</p>
平林委員	<p>包括支援センターでは、場所によっては生活支援コーディネーターが専任であったり、職員が兼任であったりとまちまちです。また、住民にもわかりにくい制度となっています。わかりやすい図などがあれば良いと思います。</p>
栗原委員長	<p>一般の市民がどこに相談すれば良いのか、そういったことが分かれば良いと思います。</p>
事務局	<p>関係図などを工夫し記載していきます。</p>
伊藤（祐）委員	<p>11ページ最後のささえ合い組織の説明ですが、現行の計画では近隣助け合い活動推進組織がこれにあたるという説明になっています。近隣助け合い活動推進組織に関する記載は残さなくても良いのでしょうか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
橋本（康）委員	<p>当時と現在では地域ささえあい組織の実態に変化が出てきたため、このような記載になったと思います。近隣助け合い活動推進組織の役割を本来のものに戻していく必要があると思います。</p>
白水委員	<p>今、我々の地域ではささえあい組織設立に向けて運営委員会を組織し、活動しているところです。運営委員会には、近隣助け合い活動推進組織の役員や、民生委員、包括支援センターにも入っていただいています。</p>
山下副委員長	<p>近隣助け合い活動推進組織は地域によって活動や、ささえあい組織との関係もまちまちであると思います。例えば、我々の豊岡第二地区のささえあい組織は、近隣助け合い活動推進組織の下部組織のような関係になりますが、独立した組織として活動しています。会計も独立しています。しかし、近隣助け合い活動推進組織の役員は自治会長等、地元の重要人物で成り立っているため、近隣助け合い活動推進組織はささえあい組織にとって心強い存在と言えます。</p>
伊藤（祐）委員	<p>西武地区でささえあい組織の設立のために活動していますが、同地区では、近隣助け合い活動推進組織の全面的な理解と支援をいただいています。区長会の総会でもささえあい組織の話をさせていただいています。平成31年6月の設立に向けて準備をしています。近隣助け合い活動推進組織はその後ろ盾となっています。</p>
諏訪委員	<p>金子地区の近隣助け合い活動推進組織は、あまり機能しておらず、組織の在り方について見直しをしていく必要があると思います。新規の組織を作るよりも、既存の組織を見直していった方が良いと思います。そのため、近隣助け合い活動推進組織については、引き続き地域福祉計画にも記載し</p>

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>てほしいと思います。</p> <p>(その他の委員からも、何らかの形で「近隣助け合い活動推進組織」の表記を残して欲しい旨の意見あり)</p> <p>「近隣助け合い活動推進組織」の表記を残して説明していきたいと思えます。</p>
橋本(康)委員	<p><b>【第6節 拠点施設の確保に向けた取組】</b></p> <p>拠点施設とはどういう施設のことを言うのでしょうか。</p> <p>公共施設マネジメント事業計画は30年計画になっているのですが、30年間待つ訳にもいかないと思います。</p>
事務局	<p>既存の公共施設の中に、福祉総合相談支援窓口を拠点として設置していくようなイメージです。</p>
橋本(康)委員	<p>公共施設マネジメント事業計画で理想の施設ができるのを待つのではなく、段階的に進めていくような記載が必要だと思います。</p>
平林委員	<p>小中学校の統廃合が進んだ場合、廃校を地区センターとして活用し、その中で拠点施設を作ることもあり得るのでしょうか。</p>
事務局	<p>可能性としてはあります。</p>
橋本(康)委員	<p><b>【第7節 事業者が行うサービスの充実と連携】</b></p> <p>「これからは…」のところで医療機関との連携で拠点施設への往診とありますが、これは実現できるのでしょうか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
諏訪委員	包括支援センターとしても、公共施設への往診を望んでいますが、医療機関側からすると難しいとのことでした。
栗原委員長	できるのであれば是非やってほしいですが。往診ではなく個人的な健康相談であれば実現可能性はあるのではないのでしょうか。
事務局	包括支援センターには看護師が配置されていることから、包括支援センターでの検診などであれば発展させていくことができるかもしれません。
伊藤（祐）委員	医療機関との連携は進んでいるのでしょうか。
事務局	現在のところあまり進んでいない状況です。
栗原委員長	他にないようでしたら、説明・報告(1) 平成30年度いるま福祉懇談会報告について、事務局より説明をお願いします。
事務局	(報告(1) 平成30年度いるま福祉懇談会報告について)
栗原委員長	<p>ただいまの報告に関して、委員の皆様より何かございますか。</p> <p>特になければ、これで議題は全て終了となりますので、議長の役を降ろさせていただきます。ご協力ありがとうございました。</p>



議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

平成30年 9月 26日

議 長 の 署 名                      栗 原 正 明

議長が指名した者の署名                      橋 本 清 美